

山口県がん化学療法チーム研修会

『免疫チェックポイント阻害薬について』開催報告

腫瘍センター事務局

令和5年2月4日（土）に、山口大学医学部附属病院腫瘍センター主催で、山口県がん化学療法チーム研修会『免疫チェックポイント阻害薬について』をWEBで開催しました。本研修は、山口県のがん化学療法の医療レベルの更なる向上を図るために、山口県内のがん診療連携拠点病院を含めた化学療法を行っている医療機関の多職種（医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・リハビリテーション担当者等）によるチーム研修となっており、4施設25名の参加がありました。

当院の永野浩昭腫瘍センター長の開会挨拶に始まり、次いで山口県健康福祉部からの挨拶の後、医師の立場からの講義が行われました。

〈講義内容〉

「irAE 下痢・腸炎」

山口大学医学部附属病院 第1内科 光学診療部 准教授 橋本 真一

「免疫チェックポイント阻害薬と内分泌疾患」

山口大学医学部附属病院 第3内科 講師 秋山 優

「起こると怖い間質性肺炎」

山口大学医学部附属病院 呼吸器・感染症内科 助教 山路 義和

各参加施設紹介の後、グループワークの症例提示が、本院の井岡医師からあり、指定された症例について各施設で検討を行いました。多職種で問題点を抽出し、解決策を考え、最後に発表していただきました。研修会全体を通じて様々な意見や質問が活発に出され、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができました。

参加者からは、「患者さんの気持ちを第一に考えながらチームで関わることの重要性を再認識しました。」「自分たちで事例検討を行なったことも良かったが、他の病院の支援内容を聞くことができ点がとても学びになった。」「お忙しい中、県内の薬物療法の底上げのためにありがとうございました。大変勉強になりました。」など多くの意見が寄せられました。

昨年に引き続きWEB開催による研修会で、当初は4施設20名程度の募集としておりましたが、研修会への参加希望者が多く、4施設25名を対象とした研修会となりました。参加者の皆さまのご協力もあり、大きなトラブルもなく有意義な研修会となり、無事終了することが出来ました。

腫瘍センターでは、これからも医療従事者に向けた様々な研修会を計画していきたいと思っておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。